

錦江に生きる

にじゅうよにん目

岩戸 優子さん

(平石自治会)



このコーナーでは、町内でこれから根を張っていこうと頑張っている若者を中心に紹介していきます。
第24回目は、平石自治会の岩戸優子さんです。

「いらつしやいませ〜！」元気な声で迎えてくれたのは、田代地区で父・良一さんと鮮魚店を営む岩戸優子さん。

優子さんは、21歳のときお母さんを亡くした。その時に、良一さんと一緒に家業を継ぐことを決意したと話してくれた。迷いはなかったですか？と質問すると、「迷うも何も、自分としては当然の流れだった。」と答えた。続けて、「でも、最初はアジとサバの区別もつかないし、移動販売でマイクを握るのも恥ずかしかつたし苦勞の連続でした。」と懐かしそうな表情を浮かべた。最近はどうですか？と聞くと「15年目にしてやつと仕事が楽しくなったかな。最近は市場での買い付けも勉強してるんです。魚をさばくのもうまくなったし！」と茶目つ気たっぷりに笑った。15年前とは大分変わりましたか？との質問には、「ほとんど変わってないです。移動販売の範囲を拡げたくらいかな。やっぱり田代のお客さんに一番喜んでもらいたいから、田代メインで少しでも新鮮でおいしい魚を販売していきたい。それが一番だと思ってます。」と自分に言い聞かせるように話した。

エイクボードなどのスポーツ。文武両道ですね。と言うと、「決してスポーツは得意じゃないけど、体動かすのは好きですね。」と笑った。では、町民体育大会なども出場されるんですか？と聞くと、「商売柄、なかなか参加できなくて…。年中無休でやってるんで、地域行事などもなかなか…。」と少し寂しそうな表情を浮かべた。続けて、「地域活動などに参加できないのは申し訳ないけど、やっぱり毎日うちの魚を楽しみにしてくださいのお客さんがいる限りは毎日店を開けていたいんです。ここで商売できるのも地元のお客さんのおかげですから。でも、やっぱりお世話になってる地域に、いつかは貢献していきたいです。」と力強く話した。

最後に一言お願いすると、「自分はこの田代でずっと生活してきて、これからも生活していくつもりです。だから、田代の良さを残しつつ、これからもっともっと盛り上がって欲しい。その為に出来ることがあれば、少しずつでも協力していきたい。そして、出来たら私達の世代でもっと盛り返してあげたいから、盛り上げていけたらうれしいな。」と話した。

優子さんは、茶目つ気たっぷり、元気な女性だった。

編集後記

●5月に入りだいぶ日差しが強くなってきました。しかし、朝夕はまだ気温が下がる時期でもあります。体調管理にはしっかり気を配りましょう。

●黄金週間。奥歯の痛みにも悩まされ、薬局で「今治水（コンジスイ）」なるものを買いました。即効性があると聞いていたのですが、使用方法を読むと「今治水を綿棒に塗布し、虫歯の穴に挿入するか、虫歯の穴に直接塗りこむ」と書いてありました。「・・・」。虫歯の穴に水が触れただけでも痛いのになんかこ出来るかと、散々悩んだ挙句、飲み薬で痛みを和らげた後に、綿棒を・・・。激痛で気を失いそうでした・・・。

●「気になる一枚」の答え。これは旧田代町時代から、田代地区のマスケットとして活躍している「でんしろ」君です。

これからのいろいろな場所ででんしろ君を目にする機会も増えると思いますので、皆さん仲良くしてくださいね。